

イベントのお知らせ

☆おはなし会（12月は第2・第3土曜日

1月は第3・第4土曜日 11:00～）

会場：吾妻まちづくりセンター 和室

対象：3歳～

内容：読み聞かせ、すばなし、手遊び、工作等

★12月20日はクリスマスおはなし会！サンタさんも遊びに来るかも？



☆親子おはなし会（毎月第3金曜日 10:00～）

会場：吾妻まちづくりセンター 和室

対象：乳幼児と保護者

内容：乳幼児向けの読み聞かせ、手遊び等



☆初笑い あづま寄席

日時：1月31日（土）14:00～15:00（開場 13:30～）

会場：吾妻まちづくりセンター ホール

対象：小学生～大人 定員：先着 150名

申込：12月25日（木）9:30より受付開始（電話可）



年末年始のお知らせ

☆年末年始の休館のお知らせ

12月29日（月）～1月5日（月）まで休館いたします。

※年末年始の休館に伴い、

12月16日（火）～12月28日（日）の間は

貸出期限を3週間に変更いたします。



☆開館時間変更のお知らせ

1月12日（月・祝）

「所沢市二十歳のつどい」開催に伴い、

吾妻分館・富岡分館・柳瀬分館・新所沢分館は

13:00からの開館となります。



吾妻分館図書館だより

No.76 2025年12月・2026年1月号

▽分館長より

表紙の写真は荒幡富士の頂上からの眺望を撮影したものです。天気の良い日には遠くに富士山の姿が見えます。

富士山と言えば「一富士二鷹三茄子」という言葉があるように、初夢に出てくると縁起が良いとされています。

なぜこれらが良いとされているのか、理由は諸説あるようですが、一つに、優れたものの象徴として、徳川将軍家に縁の深い駿河国の名物を並べたという説があります。また他には、駿河国の高い物（富士が一番高い山、鷹は愛鷹山、茄子は高価な品）を順に挙げたという説もあるそうです。

今年も余日わずかとなりました。どうぞ暖かくして、良いお年をお迎えください。



〈内容〉

▽分館長より

▽イベントの報告

▽吾妻分館でよく借りられる本

▽イベントのお知らせ

▽年末年始のお知らせ



所沢市立図書館

ホームページはこちら

QRコードはデンソーウェーブの登録商標です

イベントの報告 11月1日・2日 図書館まつり

11月1日(土)と2日(日)に図書館まつりを開催しました。図書館まつりは吾妻まちづくりセンターで行われる吾妻地区文化祭と同日に開催したため、多くの方がご来館くださいました。

毎年恒例のイベントも多く、今年は以下のイベントを行いました。

- ★リサイクル本市 11月1日(土)・2日(日)
- ★かしだしてつづき じぶんでピッピッ! 11月1日(土)・2日(日)
- ★ミニ工作会「びっくりマイクを作ろう!」 11月1日(土)・2日(日)
- ★スペシャルおはなし会 11月1日(土)・2日(日)
- ★秋の読書週間 本の福袋 11月1日(土)～11月24日(月)

開催したイベントの中からひとつ「本の福袋」をご紹介します。

本の福袋とは、題名が見えないように袋に入れた本を貸出するというもので、今回は3冊セットで貸し出しをしました。

年齢別に「0～2歳向け」、「3～6歳向け」、「7～10歳向け」、「11歳以上」、「大人向け」の5種類の福袋を用意し、大人向けはテーマを設定したものを用意しました。

吾妻分館としては久しぶりの「本の福袋」ということで興味を持ってくれた方も多く、図書館まつりの期間は特によく貸し出されました。

大人向けは「所沢ゆかり」「犬」「猫」「エッセイ」「まんが」など、テーマを決めて選書したので、テーマを見て興味を示して下さった方も多かったように感じました。

「普段自分で選ばないような本に出会えて楽しかった」と声をかけていたり、来館の度に数セット借りていく未就学児の子もいたり、幅広い年齢の方々に楽しんでいただけて、スタッフ一同嬉しい気持ちになりました。

吾妻分館でよく借りられる本

～ 今年話題になった本 ～

先日22年ぶりに実写の邦画における歴代1位の興行収入の座を獲得した映画「国宝」。流行語大賞にもノミネートされていましたね。映画では描かれなかった部分が多いため、映画鑑賞後に原作を読みたくなる方が多かったのか、原作本『国宝』(吉田修一/著 朝日新聞出版)の売上は累計200万部を突破、図書館でも多くのご予約をいただいております。

今回は『国宝』をきっかけに歌舞伎に興味を持った方へ、少し違う角度からみた歌舞伎の本をご紹介します。



『女を観る歌舞伎』 酒井 順子/著 文藝春秋 2017年
忠義のために我が子を差し出す女、ほかの男に嫁ぐくらいなら死を選ぶ女、男を想い姫から遊女に身を落とす女、歌舞伎に登場する女性達は常軌を逸した行動に走ることも多く、とってもドラマチック。歌舞伎の話は難しいと感じる方も、「女性」に焦点をあてて観てみると、また違った見え方があるかもしれません。歌舞伎が身近に感じられる、楽しいエッセイです!

『地歌舞伎を見に行こう 大人の学び旅2』 産業編集センター 2017年
秩父の奥にある小鹿野町。人口1万人ほどの小さな町ですが、年に数回全国から大勢の観光客が押し寄せるのをご存じですか?

小鹿野には江戸時代から伝わる地歌舞伎「小鹿野歌舞伎」があり、年間7回の地歌舞伎が行われています。町内には常設舞台が10か所残り、掛舞台や祭り屋台(山車)に花道などを張り出す舞台などもあります。

歌舞伎座や新橋演舞場で観る王道の歌舞伎はもちろん素敵ですが、地元の方々が代々継いで来られたものを観るのも面白いと思います。

この本には小鹿野も含め、全国6か所の地歌舞伎が受け継がれている地域が載っています。それぞれの歴史やグルメなど、美しい写真と共に紹介されており、歌舞伎を観るために旅に出るのも良いなと思える本です。